

早稲田大学 文学部 日本史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問数6題、小問数47問で昨年度より2問増加した。記述問題が18問、選択問題29問(内訳は正誤16問・語句選択12問・組合せ1問)で、昨年度から正誤問題が急増している。2つ選ぶ形式の選択問題は昨年度同様2問。時代別では原始1題・古代1題、中世1題、近世1題、近現代1題、美術史1題となっており、例年通り。原始・古代～近世で全体の4分の3を占めるため、前近代史にかなりの比重がかかる。戦後史からは昨年度同様2問出された。分野別では政治史・文化史に比重がかかり、その他、昨年度は外交史、今年度は社会経済史がよく出た。例年同様、第I問は原始時代、第VI問は美術史であった。史料問題は出題されていない。全体的なレベルはやや難である。分量も多く試験時間60分に余裕はない。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔I〕	旧石器・縄文・弥生時代	問1:オが誤り。最も古い時代のものを選べばよい。問2:ウ・オが正しい。ア「環濠集落」は弥生時代、イ「奢侈品」などは出土しない、エ「首長」は縄文時代に存在しないのでそれぞれ誤り。問3:ウが誤り。日本に伝来したのは「短粒米」である。問4:イが正解。史料上「倭人」の初出である。問5:エが誤り。「帥升」ではなく難升米。問6:「3」が正解。弥生時代は3世紀まで。	標準
〔II〕	古代の仏教	問1:イが誤り。「万葉仮名」ではなく漢文。問2:イが正解。「百済」の聖明王。問3:ウが正解。飛鳥寺は一塔「三」金堂。問4:「再建」が正解。現在は若草伽藍跡の発掘から再建説が有力である。問5:ウが誤り。「恭仁京」ではなく紫香楽宮。問6:難問。「金光明最勝王経」が正解。国分寺は金光明四天王護国之寺という。問7:「開眼」が正解。孝謙天皇の時に、大仏の開眼供養が東大寺で行われた。問8:「鑑真」が正解。鑑真は唐から戒律を伝えた。	標準
〔III〕	中世の年中行事と祇園祭	問1:「流鏝馬」が正解。鶴岡八幡宮での勇壮な神事から流鏝馬が導ける。問2:難問。オが正解。「法住寺殿」の隣に平清盛は後白河上皇の命で蓮華王院を造営した。問3:難問。ア・ウが正解。イ「神前読経」は神宮寺などで行うため宮中での仏事ではない、エ「大祓」・オ「四方拝」は神事。問4:「北畠親房」が正解。常陸の小田城で執筆した。問5:難問。エが誤り。「相撲節会」は7月(日にちは時代により異なる)に催された。問6:アが正解。織田信長が「上杉」謙信に贈った。問7:「日野富子」が正解。我が子とは足利義尚。問8:難問。「山鉾」が正解。山車的一种である。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅳ〕	江戸時代の社会経済	問1：イが誤り。下諏訪で甲州道中が中山道に合流する。問2：「河村瑞賢〔瑞軒〕」が正解。富士川・天龍川などの水路開発をした角倉了以と区別しておこう。問3：やや難。エが正しい。アは日本最初の金貨は奈良時代の開基勝宝、イ「正徳年間」ではなく元禄年間、ウ「計数貨幣」「個数」ではなく秤量貨幣で重量、オ「すべての藩」ではないのでそれぞれ誤り。問4：「天満」が正解。なお大坂魚市場は雑喉場。問5：アが誤り。「高瀬船」ではなく北前船。問6：やや難。ウが誤り。九谷焼は「漆器」ではなく磁器。問7：「入浜」が正解。以前は揚浜であった。問8：エが正しい。ア「佐渡」・イ「丹波」が誤り。ウ「薩摩」ではなく蝦夷地、オ「いくら」ではなくいりこなのでそれぞれ誤り。	標準
〔Ⅴ〕	近現代の地方制度	問1：「地方官会議」が正解。大坂会議で設置が決定した。問2：イが誤り。「萩の乱」は神風連の乱に呼応した。問3：アが誤り。大区小区を改めた。問4：イが正解。ドイツ人顧問「モッセ」が内相山県有朋に助言を与えた。問5：ウが誤り。外相陸奥宗光の事績である。問6：イが誤り。「第二次日韓協約」は第1次桂太郎内閣の時期。問7：「戊申」が正解。「申」の漢字に注意しよう。問8：やや難。「在郷軍人会」が正解。地方改良運動の過程で設置された。問9：エが正しい。アは教育委員会法、イは新民法、ウ神道指令、オは教育基本法なのでそれぞれ誤り。問10：やや難。「自治体警察」が正解。警察法(1947)で国家地方警察とともにつくることが定められた。	標準
〔Ⅵ〕	『風神雷神図屏風』	問1：難問。アが正解。「建仁寺」は京都五山第二位。問2：難問。「伊勢物語」が正解。国風文化における歌物語の初めである。問3：やや難。「絵因果経」が正解。天平文化の作品。問4：難問。オが正解。「湛慶」は運慶の長男。問5：難問。ア「大峰山一雷神」が正しい。奈良県吉野の「大峰山」は修験道の聖地。右腕・右足を振り上げるのは「雷神」の方。問6：難問。エが正解。「北野天満宮」は菅原道真を祭る。問7：やや難。エが正解。「円谷英二」はゴジラの他にモスラ・ウルトラマンなどを手掛けた。	難

〔総合コメント〕

2016年度までは記述問題が多く、2017年度は正誤問題が倍増し、今年度は記述・正誤問題がそれぞれ18問・16問と同程度になった。また、2016年度は易化、2017年度は難化、今年度は2017年度よりは若干難度は下がった。第Ⅰ問の原始時代は例年難しく、2016年度は手が出ないほどだったが、今年度は標準レベルとなった。第Ⅲ・Ⅵ問が難しかった。2016年度よりは易しくなったとはいえ、やはり全体的にはやや難である。「金光明最勝王経」「山鉾」(今年度)、「改革組合村」「帝国国策遂行要領」「螺鈿」(2017年度)など記述問題にレベルの高いものがある。2つ選ぶ形式の問題が激減しているにも関わらず、問題の難度は高いため、基本問題で失点することは避けたい。